

子どもの主体的な学びを促す授業づくり

～友達とかかわりながら、主体的に学習に取り組む子どもを目指して～

新潟市立内野小学校

1 N I E実践のねらい

(1) 主題設定の理由

本校では、「やさしさあふれる“さくら学校”」という教育ビジョンのもと、学校課題である「いじめ・不登校の未然防止と解消」と「特別支援教育の充実」の解決に向けて、日々の教育活動に取り組んでいる。

学習では、C R T学力検査で、学校全体としてほぼ全国平均並の数値を示し、基礎的・基本的な知識・技能が定着していることが伺える。

しかし、新潟市生活・学習意識調査の結果からは、「授業で、自分の考えを進んで伝えています」の項目において、市平均と比較して－9.7ポイントという弱さが見られた。このことから、本校の子どもたちは学習への主体性が低いという実態が分かる。だからこそ、かかわりを生み出す手立てを工夫し、主体的に学習に取り組む子どもを目指していく必要があると考える。

(2) 研究内容

2020 年度施行の学習指導要領では、情報活用能力育成のために新聞などの活用を図っていくことが初めて明記され、N I Eの価値や可能性はますます高まってきている。そこで、研究指定校2年目の今年度も、新聞は本校が目指す子どもの姿を実現するための手立ての一つとなると考えている。また、昨年度の研究では、「新聞記事を活用することは、子どもの興味関心を高め、学習意欲を喚起する上で有効に働く」「複数の記事を読み比べることで、学習内容を多面的に理解することができる」などの成果が上がった。一方で、以下のような課題も明らかとなった。

昨年度明らかになった課題

- 新聞活用が目的となってしまう、各教科の資質・能力の育成のための手立てとして有効に働かない場合がある。
- 記事の必要感を生み出し、友達とかかわりながら主体的に学習に取り組ませるにはどうすれば良いか。

そこで今年度は、これらの成果と課題を引き継ぎ、研究内容を次の二つに焦点化することとした。

- ①各教科の資質・能力の育成と新聞活用とを結び付けた授業づくり
- ②友達とのかかわりや子どもの主体性を引き出す新聞活用の工夫

以上の二つを研究の中心に据えて、友達とかかわりながら、主体的に学習に取り組む子どもの姿を目指して実践を重ねていく。

① 各教科の資質・能力の育成と新聞活用とを結び付けた授業づくり

前述の通り，N I E 研究 1 年目の昨年度は，新聞活用が目的となってしまう，各教科の資質・能力の育成のための手立てとして有効に働かない場合があった。このことから，各教科で育成したい資質・能力を明確にし，その上で新聞が手立てとして有効に働く場合のみ，新聞を活用すべきだということが言える。

その一方で，実践を重ねていくと，新聞でできることはたくさんあるということも分かった。本校では，新聞でできることを「①情報を得る。」「②情報と情報とを結び付ける。」「③構成や表現の工夫に気付く。」「④情報をまとめ，発信する。」の四つに分類した。

今年度は，その授業や単元で育成したい資質・能力は何か，そのために新聞でできること四つの内の何を使うか，具体的な手立てはどう講じるかの順で授業を考える。このように，新聞でできることと具体的な手立てを結び付けて授業をつくることで，各教科で育成したい資質・能力が育成できると考える。以下に，昨年度の実践から，新聞でできることと具体的な手立てを整理したものを記す。

参考：発達段階に応じた新聞活用の具体的な手立て（昨年度の実践より）

学年 新聞でできること	低学年	中学年	高学年
情報を得る	- 記事に使われている片仮名を仲間分けさせる。【国語】 - お気に入りの新聞記事について，質問し合う場を設ける。【国語】	- 新聞から短歌の題材を探す場を設ける。【国語】 - 適した記事を提示することで，新たな価値観に気付かせる。【学級活動】 - 新川氾濫の記事を提示することで，学習課題への意識を高める。【社会】	特集記事の中から，気になる記事を選択させ，話し合う場を設ける。【道徳】
情報と情報とを結び付ける	上位語と下位語（情報）の理解のために，写真（情報）を仲間分けさせる。【国語】	- 事件事故防止の取組に関する記事（情報）を複数提示する。【社会】 - パンフレット（情報）と新聞（情報）を比較させる。【国語】 - 教科書の郷土芸能（情報）を聴かせた上で，それに関わる記事（情報）を提示する。【音楽】	- 燕三条の工業に関する記事を複数提示する。【社会】 - 同じテーマに関する 2 社の記事（情報）を「内容」「構成」「表現」の観点で比較させる。【国語】

構成や表現の工夫に気付く	・見出しの内容や付け方のコツを探す活動を設定する。【国語】	・記事を提示することで、理由や具体例の必要性に気付かせる。【国語】	・同じテーマに関する2社の記事を「内容」「構成」「表現」の観点で比較させ、自分の考えをまとめる場を設定する。【国語】
情報をまとめ、発信する	・新1年生に向けた学校紹介新聞作り【国語】 ・町探検新聞作り【国語】	・1時間ごとの学びを記事にし、振り返り新聞を作らせる。【社会】	・単元の終末に、歴史新聞を作る時間を設定する。【社会】

② 友達とのかかわりや子どもの主体性を引き出す新聞活用の工夫

昨年度の実践より、記事の必要感を生み出し、友達とかかわりながら主体的に学習に取り組ませるにはどうすれば良いかという課題も明らかになった。今年度は、学習課題の解決に向けて、子どもが友達とかかわる楽しさを味わいながら、主体的に学習に取り組めるようにしたい。

例えば、友達とのかかわりや子どもの主体性を引き出す新聞活用の工夫として、新聞とICTとを組み合わせた手立てなどが考えられる。タブレットを活用し学級全員の考えを即時共有する手立てを講じることによって、互いの考えの違いに気付かせ、対話を活性化させることが期待できる。他にもタブレットに新聞記事を蓄積させる手立てを講じることによって、学習課題を解決する際、蓄積した新聞記事を自ら取り出すことが期待できるだろう。

このように、友達とのかかわりや子どもの主体性を引き出す新聞活用の手立てを工夫しながら、研究を進めていく。

2 本年度実践の概要〈新聞に親しむ取組〉

(1) 新聞閲覧コーナーの設置

情報委員会などを中心に渡り廊下や図書室、学年掲示板などにその日の新聞を掲示し、いつでも誰でも新聞を読むことができる環境をつくった。掲示する新聞は、全国紙、地方紙、子ども新聞など、多種多様な新聞を揃えた。

学年を問わず、子どもたちは新聞閲覧コーナーに立ち止まり、気になる記事に目を通す姿が多く見られた。中には、お気に入りの連載記事を見付け、日常的に新聞を読むに来る子どももいた。

また、過去の新聞は図書室に蓄積し、職員が授業で活用しやすいような環境も整えた。



(2) N I E タイムの実施

しっかりと記事を読み取る力をつけていくためには、継続的に新聞を読むなどの取組が不可欠であると考えている。そこで、昨年度から年間を通し、週1回程度新聞に親しむ学習をN I Eタイムと位置づけ、短学習に行った。そして、各学年の発達段階を考慮し、上学年と下学年に分けて実践してきた。

今年度は、昨年度の反省を生かし、読み取り中心のN I Eタイムではなく、新聞から楽しさや新しい発見が得られ、継続して意欲的に取り組める活動となるようにした。また、タブレットを積極的に活用し、教員間で教材を共有することで、授業準備にかかる負担を軽減することができ、無理なく活動することもできた。

回数を重ねるごとに、子どもたちが楽しみながら新聞を読んだり、N I Eタイムの内容をさらに自主学習で深めようとしたりする姿が見られるようになった。こうした継続的な取組の結果、授業で新聞を活用した際にも、子どもたちは新聞を楽しんでスラスラと読めるようになったと感じる。

学年	N I E タイムの内容例
下学年	○タブレットで新聞を読んで見出しクイズ ○お気に入りの記事選び ○読んだ記事の感想発表会 ○今日の新聞を読んでみよう
上学年	○4コマ漫画の4コマ目を考えよう ○記事と見出しをぴったり合わせよう ○英語の新聞記事の翻訳にチャレンジ ○料理のレシピ完成ゲーム ○この記事あなたは思う？ ○新聞のランキングをもとに意見文を書いてみよう



3 実践例

<実践例 1>

(1) 2年 国語科「主語と述語に気をつけよう」

(2) 各教科の資質・能力の育成と新聞を結び付けた授業づくり

① 育成したい資質・能力

主語と述語の関係や役割に気付き，読むことに生かす力

② 新聞記事で，できること

・情報を得る。

③ 授業における具体的な新聞活用

新聞記事の文章は，多くの人に読まれていて，伝わりやすい文章である。私たちの身の回りにある，日常的な日本語の文章といえる。授業において，新聞記事という日常で使われている文章に触れさせる。本時では，新聞記事の中の複文を扱う。教科書の単文で主語と述語を学習した児童に，複文を提示することで，主語と述語の理解を深めさせていく。

(3) 友達とのかかわりや子どもの主体性を引き出す新聞活用の工夫

① N I Eタイムで一度読んだことのある新聞記事「6さいからのニュース」から主語と述語を見付けさせる。

② 複文から主語と述語を見付けさせた後，主語と述語を対応させたイラストを提示し，新聞記事の内容に合うか検討させる。



(4) 使用した新聞記事

山形県の小学校でチョウゲンボウという鳥が巣を作ったという内容の記事である。

・「小学校で子そだて」（毎日小学生新聞 2021 年 7 月 13 日）

(5) 授業の実際

子どもたちは授業の導入でチョウゲンボウの記事を読み，既習を生かし主語と述語を見付け出した。しかし，「2わのヒナが生まれ，じどうたちがせいちょうを見まもっています」という文章から主語を探したところ，「ヒナが」と「じどうたちが」の二つあることに気付いた。そこで，「どうして主語が二つあるのかな。」を学習課題にして学習を進めた。

その後，イラストをもとにして，それぞれの主語に合う述語について話し合った。対話を通して子どもたちは，「ヒナが」「見まもっています」の組み合わせは，おかしいということに気付いた。そこから主語と述語を話の内容に合うように組み合わせると，正しい文になるということを知ることができた。



<実践例 2>

(1) 4年 学級活動「けやきっ子パワーアップ プロジェクト」

(2) 各教科の資質・能力の育成と新聞を結び付けた授業づくり

① 育成したい資質・能力

- ・各教科で学習した内容をさらに深め、第三者に発信する活動を通して、知識や学級力を高める力
- ・活動のテーマや方法を話し合うことを通して、互いの意見を認め合った上で、合意形成を図ったり、意思決定したりする力

② 新聞記事で、できること

- ・情報を得る。 ・情報と情報とを結び付ける。

③ 授業における具体的な新聞活用

活動の導入では、佐渡の小学生が修学旅行生に自分たちの住んでいる地域を紹介する内容の新聞記事を提示する。社会科で学習した内容と自学級の目標を照らし合わせ、新潟県のよさについて3年生に対して発信していくという目的を意識させる。さらに、小学生が地域について発信していることを伝える内容の新聞記事を他にも複数提示する。

その後、発信内容や発信方法について課題を見出した児童に対して、その中から自分たちの活動の参考にしたいと思った記事の一つを選択させる。選んだ記事やその理由を交流することを通して、自学級の目標に立ち返りながら、より良い発信内容や発信方法について深く考えさせていく。そして、学級としての発信内容や発信方法を決定させ、実際の活動につなげていく。



(3) 友達とのかかわりや子どもの主体性を引き出す新聞活用の工夫

- ① 小学生が地域について発信していることを伝える新聞記事を複数提示し、それに対する自分の考えや感想を記入させ、ポートフォリオさせる。
- ② 自分が参考にしたいと思ったり、自学級の目標達成につながると考えたりした新聞記事の一つを選択させ、ロイロノートで意見を共有させる。

(4) 使用した新聞記事

小学生が地域の歴史や伝統、自然、環境などについて調べ、様々な発信方法でPRしたという内容の6枚の記事である。

- ・「郷土愛学び自ら発信」(新潟日報 2015年7月12日)
- ・「トキの秘密教えます」(新潟日報 2015年7月22日)
- ・「清流の大切さ伝えたい」(新潟日報 2019年11月7日)
- ・「身近な河川みんなで守る」(新潟日報 2019年11月16日)
- ・「命育む郷土灯籠に」(新潟日報 2020年10月23日)
- ・「自慢のふるさと版画かるたに」(新潟日報 2021年3月9日)

(5) 授業の実際

前時までに子どもたちは、小学生が地域をPRしていることを伝える新聞記事を読み、「自分たちも内野の新川について3年生に発信して知ってもらいたい。」という思いをもっている。そこで本時では、「新川のことを知ってもらうための方法について」という議題のもと、学級会を行った。学級会では、事前に読んでおいた新聞記事をもとに、良いと思う発信方法について意見を出し合った。そこでは、新聞記事が子どもたちの意見の根拠となっていたため、活発に意見の交流がなされていた。その後、多数の意見が出た後、クイズと説明と動画を合わせた方が良いという意見にまとまった。



<実践例3>

(1) 5年 社会科「自動車の生産にはげむ人々と未来の技術」

(2) 各教科の資質・能力の育成と新聞を結び付けた授業づくり

① 育成したい資質・能力

- ・自動車産業に携わる人たちがどこに問題点を見付け、どのように解決しているのかの努力と工夫を多角的に考える力

② 新聞記事で、できること

- ・情報を得る。 ・情報と情報とを結び付ける。

③ 授業における具体的な新聞活用

自動車づくりに関するリアルタイムな情報を得るために、新聞を活用する。具体的には、国の方針としてカーボンニュートラル（2050年までに炭素排出ゼロ）を目指していることや、そのために電気自動車や水素エンジン車が開発されていることを理解する。このように新聞を活用して理解したことで、生産者の工夫や努力について様々な情報を結びつけながら考えることができるため、育成したい資質・能力がよりよく育めると考える。

また、新聞の見出しにはインパクトがあるため、見出しの一部を隠して提示し、書いてあることを予想することで、主体的に学習に取り組む子どもの姿を引き出していく。



(3) 友達とのかかわりや子どもの主体性を引き出す新聞活用の工夫

- ① 導入で「トヨタ自動車が水素エンジン自動車で24時間耐久レース完走」という内容の記事の見出しを隠して提示する。
- ② 新聞などから学んだことをもとにして、「私が社長なら〇〇自動車を作ります。」として、電気自動車、水素エンジン車、ガソリンエンジン車のどれか一つを選ばせ、その理由を問う。

(4) 使用した新聞記事

トヨタ自動車が開発中の水素エンジンを搭載した自動車で、耐久レースに参戦し、完走したという内容の記事である。

- ・「水素エンジン車で完走」(日刊自動車新聞 2021年8月11日)



(5) 授業の実際

前時で、環境に良い自動車づくりとして電気自動車について学んでいる子どもたちに、「水素エンジン車で完走」という記事の見出しの「水素エンジン」の部分の隠して提示した。子どもたちは、「電気自動車」「エンジン車」と答えた。そこで見出しを提示し、「なぜ、自動車会社は水素エンジン車を開発しているのか」を学習課題にして学習を進めた。

子どもたちはインターネットを使い、水素エンジン車が環境にとっても良い自動車であることに気付いた。一方で、デメリットがあることについても学んだ。その後、「私が社長なら〇〇自動車を作ります。」として、電気自動車、水素エンジン車、ガソリンエンジンのどれか一つを選ばせ、その理由を問うた。子どもたちは、環境や価格、生産性などの観点から、多角的に考えて意見を交流していた。最後に、実際のトヨタの社長の思いについて動画で視聴し、自動車会社が、水素エンジン車でCO₂ゼロを目指して努力しているということを学ぶことができた。



4 成果

2年間の研究を通して、新聞を活用することは、資質・能力をよりよく育むための手段の一つに大いになり得るということが分かった。研究指定1年目は、新聞をどのように授業に取り入れるかということに意識が向き、新聞活用が目的となる授業が多かった。研究を進める中で、新聞でできることを四つに分類したことで、その授業にあった新聞活用の方法を無理なく選択できるようになった。

また、新聞を活用することでタイムリーな話題や、身近な地域の話題などを、授業で扱うことができるため、子どもの意欲や主体性、かかわりを引き出すことに有効であることが分かった。

さらに、本校では今年度から本格的にタブレットの活用が始まった。そこで、タブレットで新聞を読んで線を引いたり、感想を書き込み蓄積したりするなど新しい学び方に挑戦することができた。その中で、新聞とタブレットは非常に相性が良いことに気付いた。このことは、これからの時代のNIEとして大きな収穫となった。

これからも、新聞活用を手立ての一つとして、友達とかかわりながら、主体的に学習に取り組む子どもを目指して研究を進めていきたい。

(落合 悠太)